

神の方法でビジネスを行う デボーションプラン

デニス・ピーコック

神の方法で
ビジネスを行う

神のリースの管理方法を知り
私たちの人生に役立てよう

DENNIS PEACOCKE

神の方法でビジネスを行う

7日間デボーションプラン

天の父である神は、私たちが「ファミリービジネス」に招き入れてくださっています。神がどのように神のリソースを管理しているのかを発見し、私たちの人生にも適用していきましょう。お金と資産、財産と富、リーダーシップとマネジメント、管理の原則など、私たちの日常生活に適用できる原則について聖書がなんと語っているのかを学びましょう。

家族、そしてビジネス界の人間関係などを通して、周りの人々や今ある状況に私たちが祝福をもたらす可能性を発見していきましょう。

このデボーションプランはデニス・ピーコック著
「神の方法でビジネスを行う」から抜粋して作成したものです。
著書の詳細は www.gostrategic.org/jp でご覧ください。

www.gostrategic.org/jp

神の方法で ビジネスを行う

神のリソースの管理方法を学び
私たちの人生に役立てよう

DENNIS PEACOCKE





1 第一日目: 神が築くファミリービジネス

今、この地上で神は何をされているのでしょうか？この世ができてから今まで、神は何をされてきたのでしょうか？ その質問に対して、多くの人は「人々が死ぬ前に救われて天国で暮らせるようになるため神は働いておられる」と答えるのではないのでしょうか。しかし、もしそうであったとすれば、神は地上での私たちの責任について記述されている聖書の大部分を免除し、天国へとさっさと隠居させることもできたはずですが。

多くの福音派のクリスチャン達は「私たちはもう救われてるし、神はこの世を支配しておられるから、私は自分のことをきちんとやって、大きな罪を犯さないようにして、出来る限り証をして「成功している教会」を建て上げ、それから天国に行こう！」と考えているかもしれません。

しかしこれは神が私たちに望んでいることではありません。私はよく「神はビジネスマンです」と言っています。それは神がビジネスを築き上げているからです。この言い方は斬新に思えるかもしれませんが聖書的です。創世記の1章26-28節では、私たちは神に似て創られ、地上を統治する者として造られたと書かれています。つまり、私たちは神と同じ本質的な目標、望み、夢を持つように造られており、地上での生活を卒業するまでの間は、それらはまず地上で実現されなければなりません。神はご自身の秩序のもとに地上にいのちをもたらそうとしておられ、そのためにご自身を信じる者たちを用いられます。

だからこそ私たちは「神の国を第一に求める（マタイの福音書6章33節）」ことに努め、「あなたの御国がこの地に来ますように。あなたの御心が天で行われるごとく地でも行われますように（マタイの福音書6章10節）」と祈るのです。私たちのミッションは天にあるのではなくこの地上にあるのです。

神によって新生した時、あなたは神の家族の一員となります。そして神の事業においては、キリストの共同相続者となるのです（ローマ人への手紙8章17節参照）。その瞬間から、天の父は他の家族のメンバーと共にあなたがそのファミリービジネスを担っていくための訓練を始めさせていただきます。神のための働きを、なぜ「ファミリービジネス」というのでしょうか。それはキリストがミナの例え話で話されていることです（ルカの福音書19章11-27節）。このたとえ話は、キリストがどのように御国を支配し、事業の運営に関連する仕事をキリストのしもべである子供たちに分配するか記述されています。

キリストの内にいる者は誰でも、神の御国のフランチャイズをこの地上で広げていく神のパートナーとして召されています。人生、人間関係、そして自分の持っているものの管理に関する神の経営原則を、聖書の内に見出すようにと召されているのです。そしてそれらを個人的に、或いは周りの人達と一緒に実現していきます。聖霊はあなたを訓練し、あなたがそれらを適切に管理し運用できるようにとさせていただきます。イエスのように、天の父が与えてくださるいのちと祝福を、すべての状況と人々へと届けていくために、あらゆる機会を活用していきましょう。あなたも友人も神のMBAプログラムにすでに入っているのですが、どのような学生または従業員になるのが重要です。

地上での生活で、神は私たちのことを奴隷としてではなく、相続人として召してくださっています（ガラテヤ人への手紙 4章7節参照）。私たちは、この地上での人生の現実や人間関係の課題、自己管理を通して鍛錬され、より多くの訓練と責任を負えるようになっていきます。力は問題によって守られます。どういう意味でしょうか？ 成長には「抵抗」が伴うため、神は日々のチャレンジを通じて私たちに鍛えて下さいます。効果的な問題解決を通じて私たちは成長し、成熟することができます。「フランチャイズ研修生」である私たちは皆、この地上での問題を解決するために神の御言葉を適用する方法を、様々な経験を通して習得していくでしょう。

この地上は神が与えてくださった私たちの学び舎です。私たちは単にこの地で罪を犯さない生活をするために生きているわけではありません。私たちは罪を追い払い、神が創造された秩序の中で罪の影響を無効にするためにここにいます。私たちは神の方法に従って築き上げられるべきです。神は世界を内側から変えます。小さく始まったものを大きく育てます。人生のあらゆる面に変革を与えます。そしてしもべの心を持つ人々を用います。私たちはこのために励んでいくべきです。自分が影響を及ぼすことができる領域に御言葉を適用していくことを学び、問題を自分の成長のために活かしていきます。

聖書箇所：

創世記1章26-28節、ルカの福音書19章11-27節、ガラテヤ人への手紙4章7節



今日の考え：

地上は私たちの学び舎です。それは困難やチャレンジや敵対心に満ちていることがあります。しかし神はそれを私たちの成長のために用いてくださいます。



2 2日目：聖書的な管理は成長をもたらします

私たちは王（支配する者）となるように、また祭司（とりなす者）となるように神に召されています。私たちの持っている可能性を壊すものやそれを止めようとするものは神から与えられたものではありません。私有財産を責任持って管理する事なくしては、自治と生産のための能力は培われません。これこそが社会主義の影響であり、人間の統治力と自発的な取り組みを壊すものとなり得ます。神は、私たちになんらかの権威を与えたり、能力や仕事の責任を与え、良き管理者となれるよう成長させてくださいます。この責任がなければ、私たちは真実を実践する機会はほとんどないでしょう。私たちの成長度合いは、神が私たちに託したものをどのように扱っていくかによって変わっていきます。

神の御国の拡大のために、神は私たちを地上の学び舎に入れてくださいました。私たちの内側と外側にある障害は、霊的な筋肉を鍛えるための「バーベル（錘）」です。「責任」は、神に従う我々フランチヤイズ社員の、主イエス・キリストの日常業務なのです。

私たちがキリストに説明責任を負っている5つの領域：

1. 私たちの肉体
2. 私たちの良心
3. 周囲の人との関係
4. 私たちの才能
5. 私たちの所有物

これらのものは神から貸与されたものです。私たちが神の御言葉に従いながらそれらを管理し、貸与されたもの以上を神にお返しすることが私たちの任務です。成長は責任と直接関係しています。何も気に留めずに生活するなら、成長することはできません。私たちが良き管理者となるための2つの側面を見てみましょう。

1つ目：あなたの働く環境において、顧客、従業員、同僚とどのように関わっていますか？彼らの能力や知恵を引き出し、彼らが成長できるようにと促していますか？「クリスチャンビジネス」はただ正直なビジネスをしながら税金をきちんと支払うビジネスを指すわけではありません。そうではなくて、人の成長に取り組むビジネスをすることが天の父の御心です。良いリーダーは、周りにいる人々が神に与えられている計画やビジョンを発見できるよう助ける者です（箴言20:5参照）。

あなたのしていることを天の父に祝福していただきたいのであれば、クリスチャンがノンクリスチャンに関わらず、その人の持っている賜物を見つけること、そして神が創造した本来の姿に彼らを導いていくを最優先しましょう。彼らは単なる従業員や同僚ではなく、神の会社の大切なビジネスパートナーなのです。聖霊の力によって周りの人々の賜物を見つけ出し、彼らの召しを成就する手助けをするとき、まだ救われていない者は救われ、すでに救われている者はさらに成長していくことができるのです。それこそが経済的な伝道と弟子訓練です。

2つ目に：所有物の管理は、霊的生活の訓練の非常に重要な部分です。良いリーダーは、人々が良い管理者となるよう導きます。イエスは次のように言われました。「最も小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実であり、最も小さなことに不忠実な人は、大きなことにも不忠実です。ですから、あなたが不正の富に忠実でなければ、だれがあなたに、まことの富を任せるでしょうか。また他人のものに忠実でなければ、誰があなたの自身のものを持たせるでしょうか。(ルカ 16:10-12)」

つまり私たちは

1. 小さなものから大きなものへ
2. 自然なものから霊的なものへ
3. 誰かのものを管理することから自分のものを管理するように

成長していく必要があります。

神は、賢明な雇い主であり天の父です。神は私たちが神の御国の仕事をするパートナーとして造り変えてくださり、神のしもべである私たちを成熟した交わりへと導いてくださいます。一致は、目標、責任を共有し、時間を共に過ごすことから生まれます。神が本来願っていることは、私たちと一緒に神の御国を築き上げることなのです。神がそのような意図をもってこの世界を創られた... そのことを考えるだけでも神への感動が溢れます！

聖書箇所：

ルカの福音書19章12-27節、箴言20章5節、ルカの福音書16章10-12節



今日の考え：

人々をケアし、所有物を管理することで私たちは成長します。成長は責任と直接関係しています。



3

3 日目：富と家族

神は「家族思いの人」です。神は家族を通して事を起こされる方であり、家族の構造と繋がりを持っているお方です。救われると、私たちは神と繋がり、神のファミリー・ビジネスの共同相続者の見習いとされた兄弟姉妹たちと繋がります。責任や管理、そして神の働きを積極的に引き受けることで私たちは鍛えられていきます。

マタイの福音書 13 章 12 節でイエスは、神の国では増加と繁栄がどう作用するのかということについての重要な霊的原則を明らかにされました。要約すると、「持っているものを管理する者はさらに与えられ、誤用する者はそれを失う」というものです。

私たちは皆「富」を持っていて、なんらかの形で「財産」を持っています。富と財産の違いは何でしょうか。私は「永続する富は家族を通してもたらされ、世代に亘って構築されるものである」と答えます。

「財産」は脆く儂い資産であるといえます。イエスは私たちに誤った目的を持ったまま仕事を第一としないように忠告しています。財産は倫理と徳の有無に関わらず得ることができるものだからです。一方で「富」は自分の持っている能力や霊的な知恵、また所有している資源の管理を神のアプローチに従って行うこと、またそれにより私たちの品性が成長していくことによって得ることができるものです。簡潔にいうならば、財産は私たちが所有しているものを指し、富は私たち自身のことを指しています。つまり財産は私たちが死ぬと同時に失うものですが、富は永遠に続くものです。

聖書が定義している富の 5 つの領域

1. 神との平安な関係
2. 神が与えてくださる関係
3. 啓示の富
4. 時間
5. 物質的な満足感

神の祝福と富は、家族という管を通して流れます。そのために、家族に関する激しい戦いがよく起こるのです。もしあなたが家族のつながりを弱め、壊そうとするならば、それは富のパイプラインを切断しているのと同じであり、大抵の場合、次の世代に家庭の経済の穴が開いてしまいます。私たちの子どもは主が私たちに与えた相続であり、私たちは子供達の良き導き手となるべきです。神は私たちに聖書が教える真理と道徳的な富を生み出す原則を次の世代へ伝え、真の財産を子孫に渡していくように教えています。

ヨハネの福音書 17 章で、イエスは、神の子どもである私たちが地上でどのような人件関係を構築すべきなのか、その模範を示しています。

この章は、天の父がイエスのもとに見張るように送った人々とその時起こった出来事に対して、イエスがどのように関わっていたかということを天の父に報告している場面です。

この章では、イエスは、彼の元に送られた人々や状況に対して、自分がどう対応したのか、天の父に報告しています。イエスはご自身が持っているものはすべて天の父の所有物であることを理解していました。相続を受けること、その相続を守り築いていくこと、子孫に引き継いでいくこと・・・物質であろうと霊的領域であろうと、それらが富と財産の忠実な管理者となるための聖書的な理解の礎となります。

私たちが何をするにしても、他の人がいるからこそ、また究極的には神がいてくださるからこそできるということを認識する謙虚さからその過程は始まります。私たちが受けたものを倍増させていくことこそ私たちに課されたチャレンジであり、それは私たち自身が消費するためではなく、神の栄光のため、そして他の人に仕えるためであることを覚えさせます。

一代限りの財産は貧困の呪いをもたらします。それは利己主義と相続の戦いであり、また消費と貯蓄の戦いでもあります。私たちは、家族、ビジネス、コミュニティ、国家を長い目で見据える視点をもつべきです。消費と借金ではなく、貯金と投資が私たちの経済を動かしていかなくてはなりません。神に仕える家族は、成功の一番大切な秘訣として、働くためのスキルと品性を後世に伝えていきます。彼らは物質的なものやお金に重きを置かないのです。お金持ちに見られる過ちの一つは、子供たちに富むことの重要性を教えないことです。それ故に、子供たちにお金が相続されると、彼らは愚かなことや無駄な投資にお金を使ってしまうのです。

人間関係に投資することは富を得るための秘訣です。それは一時的な消費ではなく、契約的な応答（自治）を促進します。キリストの最期の行動は、彼の家族（私たち）が幸せになるための計らいでした。これこそ私たちが見習うべき素晴らしい手本です！

聖書箇所：

マタイの福音書13章12節、マタイの福音書6章20節、第一コリント人への手紙3章9-10節、創世記12章3節、詩篇127篇、ヨハネの福音書17章7-21節、ヨハネの福音書19章26-27節



今日の考え：

すべての永続的な富は家族単位でもたらされ、世代間で築きあげられます。



4

第4日目: 私達の神は仕事が好き

労働は呪いの一部ではありません。罪と人間の墮落が始まる前から労働は存在し、またイエスは、労働は永遠であると教えられました。天国は空にある老人ホームではありません。そこには罪がないので、神の働きがより効率的に行われます。トランスミッションのギアから砂を取り除くように、すべてがよりスムーズに行われます。

創世記で、最初に神は、創造主、労働者、起業家としてご自身を表わされました。

ヨハネ5章で使われている「エルガゾマイ」というギリシャ語は「苦勞する、従事する、聖職者の務めを果たす」という意味があります。地球は廃れ、変容していきませんが、それを取り巻く世界は、神と神の子供たちによって育まれていきます。

神の働きの性質は次の時代へと入ります。黙示録では、教会が天から地上の住居に降りてきて、キリストを中心に、地上を支配するとあります。労働のない天国という約束は間違った教えであり、聖書の理解と神の知識の欠如の現れです。

私の魂が神の世界で見える形になって現れたのが仕事です。私の内面が、仕事として外の世界で表現されます。

誰が「本当のあなた」を最も良く知っていると思いますか。あなたのカッコイイところを週に数時間見ている牧師でしょうか、それとも一日8時間も一緒にいて、長所も短所も知り尽くしている上司でしょうか？言うまでもなく、仕事は私たちの魂を表すのです。

私たちの仕事は、私たちの動機、態度、そして目標を映し出します。実際、経済学は、結果を測定する通貨や株式市場の傾向の分析よりも、実は人々の魂に関するものです。アイデアには結果があり、霊的な価値観は私たちの仕事に現れます。世界のすべての主要な宗教の中で、キリスト教だけが仕事の神学を持っています。なぜでしょうか？なぜなら、仕事は聖なる永遠の召しであり、神は働くことを愛しておられるからです。

クリスチャンは一般的に、この世の自分の仕事は世俗的であるという考え方の犠牲になっています。仕事は二流だという考え方をやめなければいけません。神は、職人やビジネスの専門家を、ミニストリーで生計を立てている人と同じように愛し、尊敬しています！

イエスが語った労働者のたとえ話の中で、イエスは、神が失業を嫌われることを示しています。多くの人は、このたとえを労働者の視点から読み、異なる仕事量に対する同一賃金の話だと理解します。

しかし、これは社会主義的な態度であり、正義よりも嫉妬の問題をより浮き彫りにしています。仕事をしようとしないう市場に立っている人々に対する主人の深い嘆きこそが、話の核心です。

主人のぶどう園の自分の儲けに関する懸念はここには記されていません。むしろ、主人が一番気にしているのは、仕事のない人生、つまり人間が何もしないでただ腐っていくことなのです。

神は仕事のない人を見るのを喜ばれません。現代的な解決策は、給付金を与えることですが、働かないようにお金を払うことは人の尊厳を奪い、魂を傷つけます。仕事好きの神は、才能も発揮されずに、依存と無力感を生み出すシステムを悲劇として見ています。

私たちの文化は、工業国の経済的生産性の土台である労働倫理を失いました。多くの人は仕事を呪いと考えています。休日を待ち侘びることや、物質的なものを手に入れることが労働のゴールになっています。聖書の労働倫理の復活は、経済好転の鍵であり、教会が悔い改め、労働を「祝福された召し」として見始めるまで、根本的な変化は起こりません。

最終的に、神はご自分が持つておられる自己達成感を伴う労働への情熱を、神の子供たちに伝承させるでしょう。それは全能者が神でおられるのと同じくらい確かなことです。

聖書箇所：

ヨハネの福音書17-20章、ヨハネの黙示録21章10節、マタイの福音書20章1-15節



今日の考え：

仕事は聖なる永遠の使命です。



5

第五日目：ビジネスとは仕えること

しもべであるリーダーは、周りの人に所有者意識を生じさせます。天の父と同じ姿勢で歩むためには、人々が「所有者」になれるように助けることが私たちの目標であるべきです。

これこそが、キリスト教的原則に基づいてビジネスを築く人（クリスチャンであろうとなかろうと）とそうでない人の違いです。後者は、自分自身をお金持ちにする目的で人を雇いますが、前者は、所有者となる者たちが新しく起こされて、彼らがビジネスにおけるパートナーとなり繁栄することを目指します。つまり、クリスチャンリーダーは、人々が単にお金を儲けるのではなく、富を築けるよう手助けをします。経営者を生み出すことに焦点を置き、利益はその副産物として与えられます。これこそが、神が私たちに与えたパターンです。

ほとんどのクリスチャンは、キリストが語った「あなた達の間で偉大になりたいものはすべての者のしもべになりなさい」という言葉を知っています。でも本当にその聖書的な意味を理解しているのでしょうか。すべての人のために何でもしなければならないという考えがあまりにも一般的ですが、本当のしもべであるリーダーは、人々が神の計画を果たせるように助けるというキリストの模範に従います。

神は召しに あった賜物をすべての人に与えています。それは教会内でも外でも与えられています。才能ある職人に知恵を与えるのは神だからです。神が賜物を与える理由は人がそれを自分たちのために用いるためではなく、他の人のために用いるためです。神があなたを唯一無二のものとして形造り、目的をもって創造されていることを知る以上に励まされることはありません。よって、神が与えている可能性に人々を近づけること、これこそが、しもべのリーダーの目標になります。

あなたの一番大切な仕事は、周りの人が自分の役割を見つけ、持っている賜物やスキルを用いながら仕事を効果的に行う助けをすることです。これは、利益主導ではなく奉仕者主導のビジネス倫理を意味します。組織内の全員が、自分が創造された仕様（資質）を活かして仕事をしていく時、彼らは幸せで充実感を感じるだけでなく、とても生産的になります。長期的に利益を上げるのは、まさにこの様なビジネスです。私たちは利益を上げることだけを求めるのではなく、あなたが共に働いている人に仕えていくようにしましょう。利益そのものが目的なのではなく、結果的に生み出されるのです。

マタイの福音書10章39節で、イエスは、神のためにいのちを失うことについて語っています。人気や成長に気を取られているこの世界ではなかなか語られない説教かもしれません。しかし、私たちが自己の願いに死ぬとき、実をみのらせ、その実を倍增させることができます。犠牲が滋養となって、人は成長するからです。

私たちはなぜ、オーナー/マネージャーと従業員について言及しているのでしょうか？この二つには少なくとも三つの違いがあります。

1. 従業員は自分の権利を重要視しているのに対して、リーダーは自分の責任に重点を置きます。
2. リーダー達にはそれぞれの役割が任されています。

3. 利益を得るのは従業員からではありません。従業員は、収益をとんとんにする程度です。利益は、所有者意識を持っている人々によって生み出されます。

経済的価値を、責任よりも権利として考える人々や国家は、中途半端で、停滞していく運命にあります。リーダー達の内なる死こそが成長痛であり、そこにキリストとの交わりがあるのです。いのちと成長には死と犠牲が要されます。それは仕える心を持ったリーダーたちが自発的に担うべきものです。これは経済成長の基本的法則であり、需要と供給の法則と同じくらい現実的に機能します。

効果的に仕える者が結果的に導いていくようになります。どんなビジネスや取引でも、長い目で見ると、しもべの心を持った者が成功を収めるのです。全能の神のビジネスが成功するからです。神がサタンよりも強いから成功するのではなく、神ご自身がしもべであり、サタンは搾取者です。どんな上の立場になろうとも、しもべに勝る者はいません。

聖書箇所：

マタイの福音書20章26節、ローマ人への手紙8章28-30節、箴言20章5節、マタイの福音書10章39節、ヨハネの福音書12章24節



今日の考え：

仕えることは長く続く成長の土台となります。利益は結果であり、最終目標ではありません。



6

第六日目: お金が明らかにする人間の本性

もっとお金さえあれば自分の問題が解決してビジネスが成功すると思いますか？お金が崇拝される理由は、お金さえあれば何か良いことが起こり、「自由」になれると人々が信じてしまっているからではないでしょうか。あなたにとって一番力ある存在があなたの「神」となります。お金を愛することがすべての悪の根源であること書かれているのは理にかなっています。それは、神の前に他の神々を持たないという神の最初の戒めに違反するからです。

神はすべてを所有しているお方なので、資源を必要としていません。安心して下さい、神は、注文に対して必ず代価を支払って下さり、望むことを成し遂げます。

神は様々な方法で私たちの注意を引こうとします。お金は関心事のリストのトップに来るのではないのでしょうか。お金はただ話すだけでなく、時には叫ぶのです！ 神はお金を用いて、ご自身がどのような方であるのかを教え、神こそが私たちの真の供給源であり問題解決者であることを思い出させ、より管理能力を培わせてくれます。

私はもはやお金は問題だと思いません。もちろんお金の問題を持とうと思えば持てるわけですが、神がどのようにお金を用いてくださるかを知ったとき、私の考え方が変わりました。お金が問題のように見える時、私は神がすべてを所有しておられる方であることを思い出します。望んでいる物が与えられないこともあります。そんな時、私はこう自問するようにしています：

- 神は私の不道德な罪を示そうとされているのか。
- 私の動機は貪欲や物質欲ではないだろうか。
- 私のプロジェクトと目標は神のタイミングの内にあるだろうか。
- 神は何かから私を守ろうとしているのではないか。
- さらなるものを与えられたとき、私はそれを管理できる準備と能力を備えているだろうか。
- 聖書的でない方法や、道徳的でない人々と手を組んで目標を達成しようとしていないだろうか。
- 神に信頼する代わりに、全部自分でコントロールしようとしていないだろうか。

お金は折り畳んである時間です。言い換えれば、サービスや製品を得たり作ったりするために時間が使われ、人間のエネルギーが消費されます。お金を使うことは時間を使うことで、それは私たちの最も大切な財産です。お金は、この地上では制限があることを思い起こさせてくれます。お金を使うということは、時間を費やして得たそのお金をどう使うのか、選択しなければならないということです。その選択には、あなたが抱えている悩み、プレッシャー、仕事のために家族と離れている時間、死に少しずつ近づいている現実などが込められています。お金を使うということは時間を使うということであり、優先順位を決めるということです。

賢いファイナンシャルマネージャーと同様、成熟したクリスチャンはお金がすべての解決法でないことを知っています。彼らは、神のやり方に従ってなされた神の働きの必要は必ず満たされると理解し

た上で、お金は「ツール（手段）」だと考えます。したがって、管理人はお金を尊重して活用はしますが、お金を愛したり、お金を最終目的とは見なしません。彼は自分の未来と自由を進んで売り渡すことはなく（借りる者が貸し手の奴隷になるように）、また怖がって完全にお金を避けることもありません（タラントとミナのたとえ話に出てくる邪悪で怠惰で無益な僕たちのように）（マタイの福音書25章24-30節、ルカの福音書19章20-27節）。たとえ話に出てきた賢いしもべのように、クリスチャンの管理者は賢明にお金を投資して、全能者と家族に利益をもたらすようになります。

神は、神の目的と能力を通して人々に力を与えることを望んでおり、私たちの富を用いてそうしたいと願っています。世界の経済システムにおいて、社会主義の最終目的はすべての人を国家に依存させることによってリスクを排除することであり、資本主義の最終目的は利益を上げることです。一方、御国の経済は、神に召された者となって召しを全うすることを促します。私たちが自分のお金、時間、能力を誰かの人生のために注ぐとき、私たちは彼らが人生の召しを全うする手伝いをしているのです。

あなたは神の祝福が欲しいですか？神はあなたに注文する時にその支払いもされ、大抵の場合あなた自身や周りの人々のうちにあるリソースに創造性を加えることでそうしてくださいます。

聖書箇所：

マタイの福音書6章21節、詩篇50篇7節、9-10節、詩篇90篇12節、箴言22章7節、マタイの福音書25章24-30節、ルカの福音書19章20-27節



今日の考え：

神は、注文したものの代価を支払われます。お金を使うことは時間を使い、優先順位を築いていることと同じです。



7 第七日目：弟子訓練と一般市場（マーケットプレイス）

このデボーションで話してきた原則は、私たちが一貫して意識的に従わない限り、私たちの生活には何の影響も与えないでしょう。真の知識は、適切に、一貫して、説明を伴って適用される時にその効力を発揮します。真理をこの世に増やす為には、その真理を理解して適用する方法を他の人に教えなければなりません。これがなければ、ビジネスやコミュニティはおろか、身近な環境を変えることは期待できません。

真のキリスト教とは、情報が実際の変革へと繋がることです。キリストが超越していたことの証明として、イエスが関わった人たちの人生は、キリストが去った後にその人たちが本当に変えられたことにあります。「弟子」とは、自分の心をとらえた真実をさらに習得するために、日々自分を磨く事が出来る人です。キリストはシンプルに、すべてのクリスチャンに対して弟子を作りなさいと召していますが、そのような生き方をしている人はそう多くはありません。「クリスチャン（キリスト者）」という名前は人によって私たちに付けられた用語ですが、聖書では3回しか使われていないのに対して「弟子」は250回以上聖書の中で使われています。

弟子訓練はただのプログラムではなくてライフスタイルです。弟子訓練は、人の営みの中でも、特に種まきと刈り取りの法則が顕著に現れるビジネス界でさらにその効力が発揮されます。

ビジネスのアイデアや行動は、迅速なターンアラウンドタイムを持つ傾向があり、結果を見ることができます。それ故、ビジネスの世界で神の概念を見つけ、適用し、学んでいく時に私たちは短期間で多くの可能性を見ることができ、また神の御言葉が実際に働いていることを確認することができます。

多くのクリスチャンは、内面に関する個人的な動機で動きます。しかしそれでは自分や自分の周りの人のことだけを考えることになります。しかし「外向き」のクリスチャンは、キリストのために周りの人に影響を与えるために用いて頂こうと生活していきます。彼らがその動機を強く持つ理由は、自分の人生を用いていただき、自分が何らかの犠牲を払ってでも神に栄光を返し、御国を拡大していくというビジョンがあるからです。クリスチャンは天国にいきます。外を向いているクリスチャンは世界を変えていきます。

私たちが弟子としての生き方を学ばなければ、私たちの影響力は大したことはないでしょう。逆に言えば、私たちの心が燃えていれば、神とその家族のフランチャイズを地上へ拡大させ永遠へと導くようになるのです。実践も行動も伴わない真実は抽象的で、実際には役に立ちません。

私の願いはこうです。私たちは、霊的に大切な役割を果たすマーケットプレイスのミニスターたちや、神の原則によって経済的に成功するクリスチャンを求めているだけではありません。私たちが本当に必要としているのは聖書的世界観を持つマーケットプレイスで働くクリスチャンたちで、彼らはそれぞれ影響力を発揮できる範囲で、何百万人という人々を導いていくでしょう。

皆さんは、学んだことを実践の場ですべて用いようと決心していることでしょう。神の助けをいたくなら、それを「常に」「意図的に」かつ「効果的に」行っていくことができます。「常に」とは、

良い習慣を継続して行い、緊急性を訴える目の前の事柄に私たちの気を逸らさせずに、神のご計画のうちに日々成長することです。また、「意識的」とは、何をしているのか、なぜそれをするのか、そしてそれがどのくらい効果的かをどう測定するのかを知ることです。

神との深い振り返りの時間を持ってください。この世の早いスピードの流れは私たちの魂を渋滞させてしまい、ビジネスの実用主義だけに頼らせ、本来の霊的な法則に則らない方法に動かして、自分の時間を有効に使えないようにさせてしまいます。

私たちが神の召しに応答できるよう、どうか神が助けてくださいますように。「私たちが立ち上がって築き上げていきますように。家庭に真理を持ち込み、自分の関わる場所すべてにおいても真理を用いますように。神の法則を生きることができるよう。そしてキリストを知ってもらうために神の法則を周りの人のために用いていくことができますように。主よ、助けてください。全能の神であり私たちの家族である神が私たちの人生を変革してくださることを信じます。」

聖書箇所：

使徒の働き 17章6節、ローマ人への手紙 12章 2 節、イザヤ書 61章4節



Copyright © GoStrategic 2025

今日の考え：

クリスチャンは弟子として生きるべきです。弟子は学ぶことに関して訓練されている者です。